

子育て支援の取り組み

「親と子のいきいきとした笑顔がやくまち」を目指して



近年の急速な少子化に対応するため、その対策として子育て世帯に対するサービス拡充が進められています。本町でも令和2年に策定した「第2期小国町子ども・子育て支援事業計画」に基づき、子育て支援に取り組んでいます。

今回は本町における子育て支援の制度や子育て支援センターの取り組みについて紹介し、子育て支援のあり方について考えます。

進行する少子化

現在、日本では少子化が急速に進んでいます。令和4年の出生数は約77万人で、過去最少となり、国が予測していたよりも早いペースで進行しています。

2030年代になると若年人口は現在の倍速で急減し、少子化に歯止めがかからない状況になるため、これから6～7年の間に少子化傾向を反転する必要があります。そのため国では「こども・子育て政策の強化について（試案）」次元の異なる少子化対策の実現に向けて「」を公表し、子育てに係る支援の強化、サービスの拡充、子育てにやさしい社会づくりのための意識

特集 子育て支援の取り組み～「親と子のいきいきとした笑顔かがやくまち」を目指して～

改革など少子化問題に取り組んでいく姿勢を示しました。また、4月1日には子どもの視点、子育てをしているかたの視点に立った政策を進めるため、こども家庭庁が発足しました。

本町でも平成27年に「親と子のいきいきとした笑顔かがやくまち」を基本理念とした「小国町子ども・子育て支援事業計画」を策定し、子育て支援事業を展開してきました。

令和2年には「第2期小国町子ども・子育て支援事業計画」を策定し、子どもたちが健やかに育ち、保護者が子育てや子どもの成長に喜びや生きがいを実感できる環境を社会全体で創出するための施策に取り組んでいます。

子育て支援センターの取り組み

本町では子育て家庭への支援や、地域全体で子育てを支

援する基盤づくりを進めるため平成14年度に小国町子育て支援センターを設置しました。専任の保育士を配置し、子育てに関する不安や悩み、心配ごとに対する相談指導にあたっています。

本年7月にはショッピングセンターアスモ内に場所を移し、リニューアルオープンしました。7月3日に開催したオープニングセレモニーでは、遊びにきた子どもたちには、プレゼントが贈られました。

子育て支援センターが実施する「なかよし広場」は就学前の子どもと保護者が一緒に遊ぶ場や子育ての仲間づくり、子ども同士の出会いの場にもなっています。同世代の子どもを持つかたがたが交流し、仲間を見つけることにより、子育てに対する孤立感の解消につながるとともに、育児に関する情報交換ができます。

また、赤ちゃんとのふれあ



オープニングセレモニーでは6人のお子さんにプレゼントを贈呈



幼児救急講習



なかよし広場



タッチケア教室

特集 子育て支援の取り組み～「親と子のいきいきとした笑顔かがやくまち」を目指して～



子育て講座（エアロビクス）に参加する矢口さん（左）と舟山さん（右）

い遊びができるベビーマッサージを体験するタッチケア教室や保護者のかたを対象とした子育て講座なども開講しています。

子育て講座ではエアロビクスやヨガ、セルフマッサージなどの心身をリフレッシュする活動から、集中して楽しめるハンドメイド、子育てに役立つ食育や幼児救急講座など幅広い内容が用意されています。参加者が安心して講座に

参加できるよう、講座開講中は子育てサポーターやスタッフが子どもたちのお世話をしてくれます。

普段から子育て支援センターを利用している舟山里恵さん（町原）は「子育て講座はスタッフのかたに子どもを見てもらえるので、安心して参加できます。育児をしていると身体を動かしたり、集中して何かを作ったりする時間が取れないため、リラックスできるいい機会になっています。なかよし広場は赤ちゃんや若いお母さん、お父さんの利用者が多く、情報交換ができます。せっかくなら、赤ちゃんよりももう少し大きいお子さんや祖父母世代のかたにも利用してもらい、交流できると嬉しいですね」とお話しくださいました。

また、里帰り出産でセンターを利用して矢口里彩さん（新原）からは、「里帰りで、気軽に子どもと一緒に

に過ごせる場所や参加できる講座があつて助かつています。新しい子育て支援センターはとても綺麗で空調も効いており、赤ちゃんを安心して連れて行くことができます。1日を通してなかよし広場を利用したいと思いますが、お昼の時間は閉まってしまいままで、親子で過ごせる飲食スペースがアスモ内にあることもつと利用しやすくなると思います」と感想をいただきました。

子育て世帯をサポート

全国的に核家族化が進むとともに、共働き世帯が増加しており「近くに親戚がおらず子どもを預けたくても頼る先がない」、「休みが取りづらく育児と仕事を両立することが難しい」といった声が聞かれるようになりました。

このような現状を受けて、

町では子育て世帯をサポートし、より子育てがしやすい環境づくりの一環として病後児保育事業に取り組んでいます。

これは病気の回復期であり、集団または家庭での保育が困難な子どもを専用保育室で看護師と保育士が連携しながら預かるもので、平成30年1月、健康管理センター内に小国町病後児保育室「にこにこ」を開設しました。対象は1歳から小学3年生までの児童で、平日の月曜日から金曜日の午前8時から午後6時まで利用できます。「熱は下がったけれども、大事をとって保育園を休ませたい。でも仕事が終わらず自宅で保育できない」、「怪我をして保育園を数日休まなければならない」といった困った場面で活用できる事業です。

また、平成17年度に開始したファミリー・サポート・センター事業は子育てのお手伝

特集 子育て支援の取り組み～「親と子のいきいきとした笑顔かがやくまち」を目指して～

いをしたいかたと、手伝いを必要としているかた、協力と利用のどちらも兼ねるかたが登録し、育児をサポートする制度で、突発的、臨時的な保育ニーズに対応することができま

一方、令和4年度には子どもやその家庭、妊産婦のかたを対象に、各家庭にあった適切なサポートを提供するため、小国町子ども家庭総合支援拠点を設置しました。今年度から専任の職員を配置し、子どもや家族からの相談を受け、関係機関と連携を図りながら対応し、また、子育てに関する制度やサービスの情報提供などに取り組んでいます。

加えて、町では子育て世帯の経済的な支援にも取り組んでおり、第3子以降の保育料の無償化や副食費の無償化、0歳から高校生までの医療費無償化を実施しています。さらに、安心して出産・子

育てができるよう伴走しながら相談・支援を行うとともに、出産支援金、子育て応援金を支給する出産・子育て応援ギフト支給事業や、出産祝いとして赤ちゃんの名前入りのバスタオルをプレゼントする赤ちゃん応援ギフト事業も実施しています。

子育てしやすいまちを目指して

ここ数年の目まぐるしい社会情勢の変化は、育児を取り巻く環境にも大きな影響を及ぼし、子育ての孤立化や、育児と仕事の両立の難しさ、多様化する保育ニーズへの対応といった課題がより一層、浮き彫りになっています。

町ではこれからも子どもや子育てするかたを支援していくとともに、地域全体で子育てに取り組む環境づくりを進め、「親と子のいきいきとした笑顔かがやくまち」を目指し、事業を展開していきます。

～ 子育て支援事業のご紹介 ～

☆子育て講座

- 対象 就学前のお子さんとおうちのかた
- 場所 健康管理センター
- 内容 食育、エアロビクス、ヨガ、ハンドメイド、幼児救急講座、セルフマッサージ

☆子育て相談

- 子育て相談・個別相談・訪問 月～金曜日 13時～17時（事前連絡をお願いします）
- 健康に関する相談 6月・9月・12月・3月 9時～11時30分
- 電話相談 月～金曜日 8時30分～17時

☆なかよし広場

- 対象 就学前のお子さんとおうちのかた
- 場所 子育て支援センター
- 時間 月～金曜日 9時～11時30分・13時～16時

☆タッチケア教室

- 対象 生後2ヶ月～歩行前のお子さんとおうちのかた
- 場所 健康管理センター
- 回数 年3回

☆ブックスタート（年6回、3・4か月児健診時）

- 対象 就学前のお子さんとおうちのかた
- 場所 健康管理センター

ファミリー・サポート・センター

子育てのお手伝いをしたいかた（協会員）と、手伝いを必要としているかた（利用会員）、協力と利用のどちらも兼ねるかた（両方会員）が登録し、育児を手伝ってもらったり手伝ったりできる制度です。

- 登録 健康福祉課（☎61-1000）へ

小国町病後児保育室「にこにこ」

- 対象 町内在住または保護者が小国町の事業所に勤務している1歳～小学3年生までの児童（事前登録制）
- 場所 病後児保育室（健康管理センター内）
- 時間 月～金曜日 8時～18時

小国町子ども家庭総合支援拠点

0歳から18歳までの子どもに関するあらゆる相談を受け付けています。気軽に何でも相談してください。電話相談・訪問での相談も可能です。

- 時間 月～金曜日 8時30分～17時15分
- 問合先 健康福祉課（☎61-1000）へ

問合先 ☆健康管理センター（☎61-1000）へ ☆子育て支援センター（☎090-9015-8330）へ